

| | |
|------|--------|
| 研究区分 | 学部研究推進 |
|------|--------|

| | | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|------------|----|------|
| 研究テーマ | 日本研究プログラム（思想部門）前提知識の整理のための動画教材制作 | | | | |
| 研究組織 | 代表者 | 所属・職名 | 国際関係学部・准教授 | 氏名 | 木澤 景 |
| | 研究分担者 | 所属・職名 | | 氏名 | |
| | | 所属・職名 | | 氏名 | |
| | | 所属・職名 | | 氏名 | |
| | 発表者 | 所属・職名 | 国際関係学部・准教授 | 氏名 | 木澤 景 |

| |
|--|
| 講演題目 |
| 事前課題のための動画教材の効果と問題点 — 「日本思想研究のための仏教の基礎」 動画 — |
| 研究の目的、成果及び今後の展望 |
| <p>発表者は主に日本文化における思想分野（仏教、儒教、武士道など）の講座を担当しているが、近年の高校カリキュラムの変動により、公民科目「倫理」の非履修は言うに及ばず、地歴科目「日本史」、古典科目「古文」「漢文」の履修も前提にできない状況が生じている。さりとて、大学での講座を高校の科目レベルまで下げることが本来の目的から外れるし、高校での既履修者にとっての不利益も大きい。よって最低限の前提知識を、授業外の自主学習において習得できるよう、動画教材の制作と、試験的運用、視聴学生からのフィードバックを行った。</p> <p>日本思想研究のためには、神祇信仰（神道）、仏教、儒教、武士道思想などの基礎知識があることが望ましいが、今年度はまず仏教についての教材化を試みた。</p> <p>「日本思想研究のための仏教の基礎」と題し、約90分の動画を3本作成した。</p> <p>① 第一回 ゴードマ＝ブッダの生涯 — 四門出遊・中道・自灯明 —</p> <p>② 第二回 ブッダのさとり — 縁起の法・四諦 —</p> <p>③ 第三回 仏語としてのお経 — 十大弟子・仏典結集・部派仏教 —</p> <p>④ （第四回 大乘仏教とは何か — 大乘経典・龍樹・空 — ※ 中途）</p> <p>これらを発表者担当の指導学生（演習履修者）の希望者に視聴させ、未視聴者との理解度の差を測定し、アンケートを通して問題点等を洗い出した。理解度については、各講座では言及できない仏教の大枠を意識して日本仏教の研究に取り組むことができる学生が生じたと感じられた。ただし、動画教材の問題点でもあるが、コンテンツとして閉じている側面も強く、講義やゼミでの日本仏教の学びの際に、必ずしも動画内の基礎知識と連動させられない面も認められた。</p> <p>視聴学生からの声としては、おおむね好意的な評価が寄せられ、仏教の続く時代や、儒教など他の思想分野の動画教材も欲しいという声が聞かれた。一方で、基礎知識を淡々と解説していく形式になりがちであり、一時停止しながら関連教材を読み込みつつ動画視聴をしていると、想定している時間ではまったく足りず、仮にこのような動画視聴を前提に授業が進められるとするならば、一般の学生には負担が大きすぎる、という声も聞かれた。こうした意見を寄せた学生からは、動画教材よりも音声教材であれば、移動中などに何度でも聞き直しやすく助かる、という提案もあった。</p> <p>すでに動画に修正すべき点も見つかっているので、今後、撮り直しを行いつつ、より充実した教材環境が整えられるよう、上記の声も参考に、抜本的な方向性の再検討から進めていきたい。</p> |